

今回の改正により国際希少野生動植物種に追加等する種の概要

(追加)

	分類	種名 (学名)	特徴及び分布域等
1	鳥綱 おうむ目 おうむ科	フジイロボウシインコ <i>Amazona finschi</i> アマゾナ・フィンスキ	メキシコの太平洋沿岸に固有の種で、標高 0 ~ 500m の間に多く見られる。体長約 33cm。 分布域：メキシコ
2	鳥綱 おうむ目 おうむ科	コバタン <i>Cacatua sulphurea</i> カカトゥア・スルフレア	インドネシアと東ティモールの固有種で 4 亜種に分類され、それぞれ生息域は狭い。 分布域：インドネシア、東ティモール
3	爬虫綱 かめ目 りくがめ科	クモノスガメ <i>Pyxis arachnoides</i> ピュクスリス・アラクノイデス	マダガスカルに固有の種で、沿岸部の乾燥地帯に生息。推定個体数は 10,000 頭以下。 分布域：マダガスカル南西部
4	やし科	クリュサリドカルプス・ デキピエンス <i>Chrysalidocarpus decipiens</i> (和名なし)	マダガスカルに固有の種で、1995年の調査での確認数は約 200 個体のみ。 分布域：マダガスカル

(削除)

	分類	種・亜種名 (学名)	特徴及び分布域等
1	鳥綱 わしたか目 わしたか科	アラスカハクトウワシ <i>Haliaeetus leucocephalus alascensis</i> ハリアエトウス・レウコケファ ルス・アラスケンシス	ハクトウワシの亜種で、湖、河川、河口、沿岸など水辺周辺で多く見られる。 全長 85cm, 翼開長 2 m。 分布域：北米大陸に限られる。
2	らん科	カトレイア・トリアナエイ <i>Cattleya trianaei</i> (和名なし)	アンデス山地の固有種で、標高 600 ~ 1,940m の高山帯に生育。14 ~ 16cm の花をつける。 分布域：南米コロンビアのアンデス山地
3	らん科	ヴァンダ・コエルレア <i>Vanda coerulea</i> (和名なし)	標高 800 ~ 1,700m の疎林に生育し、落葉樹等に着生する。分布域は広く、中国の個体群は人為的影響を受けていない。 分布域：中国、インド、タイ、ミャンマー

国際希少野生動植物種に追加する種について

フジイロボウシインコの概要

1. 分類

おうむ目 おうむ科
フジイロボウシインコ
Amazona finschi
体長 33cm

(写真)

2. 原産国

メキシコ

3. 分布状況

メキシコの太平洋沿岸に固有の種である。最近では多くの個体は標高0～500mの間で見られる。現在の分布面積は142,500km²以下であると推測されている。1940～1960年代には分布域で普通に見ることのできた種であったが、1975年にはペット目的の取引により野生個体群に影響の出るレベルになった。1980年代から野外個体は急激に減少し、一部の州では絶滅した可能性が高い。

4. 生息を脅かす要因

取引目的の野生個体の捕獲と、生息地破壊が本種に対する脅威となっている。太平洋沿岸の低地の乾燥林は農耕地や牧草地に急激に転換されている。生息地の分断化は野生個体群に重要な影響を与えている。また、1970年代後期、本種の捕獲と取引は急激に増加しており、現在でも違法取引が横行している。

5. 保護管理状況

メキシコでは、本種は現在「絶滅危惧(A)」に指定されており、生息地の悪化や改変、個体数減少の直接的な原因などによる影響が続く場合には、特別な保護対策が命じられる。メキシコにおける本種の利用と管理は、「生態系バランスと環境保護に関する一般法」によって保護されている。国際的には1981年にワシントン条約の附属書に含められている。1999年にメキシコ政府は重要種の回復プロジェクトを設立し、その中で本種の生息地保護と野生個体群の回復の戦略を作成している。

コバタンの概要

1. 分類

おうむ目 おうむ科

コバタン

Cacatua sulphurea

体長 33cm

2. 原産国

インドネシア、東ティモール

3. 分布状況

本種はインドネシアと東ティモールの固有種である。4亜種に分類され、それぞれ生息域は狭い。個体数はもっとも少ない亜種ではわずか5個体、多い亜種でも1,150~2,644個体と推定されている。

4. 生息を脅かす要因

森林の違法伐採や森林火災による生息地減少と、ペットとしての取引のための違法捕獲などが個体数の激減を引き起こしてきた。違法捕獲に関しては、本種が群れをなす性質もあいまって、効率的な捕獲により一ヶ所でグループ全体を捕獲する結果となり、地域的な絶滅を引き起こしている。

5. 保護管理状況

国内的には、1997年まで本種はインドネシアでは保護されていなかったが、1999年より国内法により、捕獲、保有及び標本取引が禁止され、種全体が保護されている。生息地保護に関して、本種の生息にとって重要な地域は国立公園などの保護地域に指定されている。様々な調査結果をもとに、密猟対策、法の強化及び飼育下繁殖個体の導入などを目的として、1997年に種の回復計画が策定された。

国際的には1981年にワシントン条約の附属書 に掲載された。また、EUやアメリカが国際的な輸入制限を設けている。

(写真)

クモノスガメの概要

1. 分類

かめ目 りくがめ科

クモノスガメ

Pyxis arachnoides

体長15cm

(写真)

2. 原産国

マダガスカル

3. 分布状況

マダガスカル南西沿岸部の乾燥地帯に生息。個体数は推定 10,000 頭以上であるが、減少傾向にある。

4. 生息を脅かす要因

生息地破壊の他、ペット用の国際的商取引のための大規模な採取が大きな脅威である。地元での食用など国内利用目的の採取は少ない。国際ペット市場のための捕獲の問題は近年深刻化している。

5. 保護管理状況

本種は国内法で保護されており、捕獲は許可制であり、食用消費も禁止されている。2カ所の保護区に本種が生息することが知られているが、本種の生息地の多くは保護区外である。1990年以降、マダガスカルは環境行動計画で保護区の数を増加させようとしているが、本種の保護への効果は不明である。本種を対象とした保護計画は国内的にも地域的にも存在しない。1975年にワシントン条約の附属書に掲載され、国際取引が規制されている。

クリュサリドカルプス・デキピエンスの概要

1. 分類

やし目 やし科

クリュサリドカルプス・デキピエンス

(和名なし)

Chrysalidocarpus decipiens

(写真)

2. 原産国

マダガスカル

3. 分布状況

マダガスカル固有種で、マダガスカル島中心部の最も人口密度の高い地域に見られる。1995年の調査では約200個体が確認されている。

4. 生息を脅かす要因

人口圧や山火事による生息地破壊が進んでいる。国内利用では、芽が食用に収穫されることが個体の生育に大きな影響を及ぼしている。既に野生個体数が少なく、毎年結実するとは限らず成長が遅い。本種は種子又は苗木の状態で輸出される。これまでは附属書 掲載種であったが種子については取引規制の対象外とされていたため、天然更新を妨げるほど種子が採取されていた。マダガスカル政府からの輸出相手国や出向地に関する統計データはない。

5. 保護管理状況

本種は保護区外の人為的影響の強いエリアに生息する。1975年にワシントン条約の附属書 に掲載され、国際取引が規制されている。

国際希少野生動植物種から削除する3種

(写真)

- 1 .ハリアエトウス・レウコケファルス・
アラスケンスイス
わしたか目 わしたか科
アラスカハクトウワシ
Haliaeetus leucocephalus alascensis

(写真)

- 2 .カトレイア・トリアナエイ
らん科
(和名なし)
Cattleya trianaei

(写真)

- 3 .ヴァンダ・コエルレア
らん科
(和名なし)
Vanda coerulea